

喇嘛教と
母教

佛教の勃
興

大乘大成

密教の提
唱

南方佛教
即ち小乘

の沿革及教義を明にせんには、勢ひ其の母教たる、密教より説かざるを得ず。

喇嘛教は如何にして密教より出でたるか、密教は如何にして喇嘛教を産みたるか、又如何にして西藏に入り、新疆に來りしかは、蓋し左の如くなりと云ふ。

印度の中部、ガンヂスの河孟に勃興したる佛教は釋迦在世の時、既に隆々として印度全國を風靡したるが、釋迦の滅後二百年の後ち、大小二乗の分離と爲り、波羅門教徒、及蠻人の迫害に遭遇し、遂に佛教徒は、難を逃れで四方に散じ、茲に始めて佛教を各國に傳播するの路を開きたり。後ち時勢の要求に應じて、高僧輩出し、教理の發揮に貢獻したる爲め、佛教の勢力大に恢復せり。釋迦滅後六百年代に、馬鳴マウ出でて大乘佛教を唱道し、七百年代に龍樹出で、専ら大乘教を大成して之れを宣揚し以て小乗の固執を摧き、無相好佛として世に崇仰せられたり。

龍樹は一方に大乘理を發揚すると共に、又一方には密教なるものを唱道せり。後ち龍智、密教を繼承して専ら之れが發揚に勉めたり。

佛教の各國に傳播するや、東北南の三方に向て、擴張線路を取りしもの、如し。即ち南方は錫蘭島、緬甸、暹羅及後印度近傍の諸島に入りしもの、是を南方佛教と謂